

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00941

研究課題名（和文）香取文書の文化財としての保存に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on preserving the Katori documents as cultural assets

研究代表者

鈴木 哲雄（SUZUKI, Tetsuo）

都留文科大学・教養学部・特任教授

研究者番号：20374746

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：中世東国の代表的な史料群である「香取文書」の文化財としての保存に向けた基礎的研究として、香取神宮所蔵の「香取文書」（本所古文書（全5巻）・旧社職源太祝家文書（全6巻）・録司代家文書（全2冊）・要害家文書（全3冊）・源太祝家文書（全2冊）・香取神宮古文書写（全4巻）・大宮司家文書（全1巻）・慶長十三年正月司召（全1巻）・宝徳二年司召（旧録司代家）（全1巻）・孝明天皇御祈願文書（全1巻）ほか）、香取案主家文書（全7冊）、香取分飯司家文書（1帖・2冊）の調査と写真撮影を行い、デジタルデータと保存した。また、『研究成果報告書』を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世東国の代表的な史料群である香取文書のデジタルデータ化をはかり、史料学的な調査を実施したことによって、すでに国の重要文化財である香取大禰宜家文書（15巻7冊、460点）と千葉県指定文化財である香取分飯司家文書（58通・2冊）とともに、香取神宮（香取社）の社家に伝来した古文書の集合体である香取文書が、一体の文書群として評価されるべきものであることが明確となった。また、香取大禰宜家文書と香取分飯司家文書そして香取神宮現蔵の香取文書を除く、他の香取文書について、1点毎の形状や料紙等の基礎的なデータの記録を行い、『研究成果報告書』として刊行したことは、十分に学術的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：As part of basic research towards preserving the "Katori Documents," a group of representative historical documents from the eastern provinces of the Middle Ages, as cultural assets, we conducted research and photographs of the "Katori Documents" held by Katori Shrine (Honjo Ancient Documents (5 volumes), Documents of the former shrine priest Genta Ikue family (6 volumes), Documents of the Rokushidai family (2 volumes), Documents of the Yohei family (3 volumes), Documents of the Genta Ikue family (2 volumes), Copies of the Ancient Documents of Katori Shrine (4 volumes), Documents of the Daiguji family (1 volume), Documents of the New Year of 1618 (1 volume), Documents of the Second Year of Hotoku (former Rokushidai family) (1 volume), Documents of a Prayer from Emperor Komei (1 volume), and others), Documents of the Katori Anshu family (7 volumes), and Documents of the Katori Bungaiji family (1 book, 2 volumes) and stored them as digital data.

研究分野：日本中世史

キーワード：香取文書 文化財保存 古文書調査 デジタルデータ 香取神宮

1. 研究開始当初の背景

すでに、現状の香取文書の全体像は、平成3年度から平成20年度にかけての千葉県史編さん事業の中で、中世史部会が行った調査によって、『千葉県史編さん資料 香取文書総目録』(千葉県、1999年)としてほぼ明らかになっている。また、千葉県史編さん事業の成果を踏まえた香取文書の書誌学的・史料学的検討は、研究代表者の鈴木哲雄が『香取文書と中世の東国』(同成社、2009年)に纏めている。しかし、すでに国の重要文化財である香取大禰宜家文書と千葉県の指定文化財である香取分飯司家文書および香取神宮所蔵の香取文書を除いては、文化財としての指定にあたって必要な各々の文書の形状・料紙などの基礎的なデータが未調査・未整理の状態である。

2. 研究の目的

本研究は、中世東国の代表的な史料群である「香取文書」の文化財としての保存に向けた基礎的研究として、香取文書のデジタルデータ化と史料学的な調査成果を『香取文書調査報告書』として整理するものである。すでに文化財として指定されている旧社家の文書も含めて香取文書は、香取神宮(香取社)の社家に伝来した文書の集合体であり、一体の史料群として評価されるべき文化財である。文化財としての保存に向けた基礎的な調査を実施するとともに、香取文書の保存作業の一貫として、デジタルデータ化を進めていく。

3. 研究の方法

本研究では、香取文書のすべてについて写真撮影を行い、デジタルデータとして保存すること、香取大禰宜家文書と香取分飯司家文書及び香取神宮所蔵の香取文書を除く、他の香取文書について、1点毎の形状や料紙等の基礎的なデータの記録を行い、『香取文書調査報告書』としてまとめること、の2点について実施する。デジタルデータと『香取文書調査報告書』の成果によって、未指定の香取文書の文化財としての保存に向けた前提資料がほぼ整うものと考えられる。

4. 研究成果

2020年度には、千葉県香取市の香取神宮において調査を実施した。香取神宮所蔵の香取文書(「本所古文書」(全5巻)・「旧社職源太祝家文書」(全6巻)・「源太祝家文書(冊子本)」(全2冊)・「録司代家文書(冊子本)」(全2冊)・「要害家文書(冊子本)」(全3冊)・「香取神宮古文書写」(全4巻)・「大宮司家文書」(全1巻)・「慶長十三年正月司召」(全1巻)・「宝徳二年司召(旧録司代家)」(全1巻)・「香取神宮新蔵文書(旧大宮司家文書、旧宮司家寄贈)」(13点)・「天文二十四年司召」(全1巻)・「香取社退転神官等所役所之事」(全1巻))の形態調査と写真撮影を行った。香取神宮所蔵の香取文書の大半については、すでに旧佐原市教育委員会によって個々の文書の採寸など基礎的な調査は済んでいるが、佐原市教育委員会編『香取神宮史料調査報告書』)2020年度の調査では、専門的な知識を有する2名の研究協力者(木村修氏・池田寿氏)をお願いして、未採寸分についての調査記録を採るとともに、調査対象のすべてについて卷子や冊子、掛軸などの形態的な特徴(装幀)について記録することができた。また、対象文書のすべてをデジタルデータとして保存した。

2021年度には、昨年度の調査整理と香取神宮での補助的な調査を実施した。調査整理は、昨年度撮影済みの香取神宮所蔵「香取文書」の内、「本所古文書」・「旧社職源太祝家文書」・「録司代家文書」・「要害家文書」・「香取神宮古文書写」・「大宮司家文書」・「慶長十三年司召」・「宝徳二年司召」についての整理を行い、研究用と所蔵者香取神宮の保存用デジタルデータを編集した。また、研究用と香取神宮保存用にそれらを順にプリントアウトした。

香取神宮においては、未確認であった「源太祝蔵古書類」等の調査を実施したが、中世文書は確認できなかった。なお、「佐原市香取 香取神宮新蔵文書整理記録」(佐原市教育委員会、平成15年10月)に載る「東山天皇口宣案(3通)」・「検納状」・「徳川光圀書状」および天正の検地帳類の写真の整理を行った。また、「天文二十四年司召」・「香取社退転神官等所役所々事」とある文書の写真上での整理を実施した。

2022年度には、香取案主家文書の調査・撮影と香取神宮所蔵の香取文書類の補足的な調査を実施することができた。香取案主家文書の調査では、中世文書全7冊(約342通)の冊子の調査と写真撮影を行うとともに、新たに近世史専門の酒井右二氏を研究協力者にむかえて、近世文書についての調査・写真撮影も実施した。さらに香取神宮において香取神宮所蔵の香取文書の内の「孝明天皇御祈願文書」などのほか、これまでの調査で漏れていたもの、さらに金石文や絵図類に関するものについても調査を実施した。

2023年度には、「孝明天皇御祈願文書」などのほか、香取神宮所蔵の金石文や絵図類の写真データを整理したが、金石文や絵図類については、さらに精査が必要である。また、旧分飯司家において千葉県指定文化財である「香取分飯司家文書」の調査を実施した。

なお、研究成果報告書として、『香取文書調査報告書 香取文書の文化財としての保存に向けた基礎的研究』(研究代表者鈴木哲雄 都留文科大学教養学部)を刊行し、同報告の「香取

文書装幀一覧および文書目録」の内、「香取文書装幀一覧」には、上の〔香取神宮所蔵「香取文書」〕の1～12と〔香取案主家文書〕を載せ、「文書目録」としては、採寸などの報告書のない〔香取案主家文書〕と〔香取神宮所蔵「香取文書」〕の13を掲載した。また、研究代表者と研究分担者および研究協力者、合わせて6名の個別研究の成果を掲載した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鈴木哲雄	4. 巻 97
2. 論文標題 海上千葉氏と香取内海-内海をめぐる戦国争乱-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 17~39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 鈴木哲雄	4. 巻 27
2. 論文標題 海上千葉氏の領国支配-網代・製塩・「郷中開」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都留文科大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 87~109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 湯浅治久	4. 巻 2
2. 論文標題 孕石氏の来歴と中世の原泉地域	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 原の会 会報	6. 最初と最後の頁 2~4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木村修	4. 巻 47
2. 論文標題 大慈恩寺木造千手観音坐像の願主斎藤三政と仏師運節	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 成田市史研究	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村修	4. 巻 47
2. 論文標題 下総の湯浅氏について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 成田市史研究	6. 最初と最後の頁 65～66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井右二	4. 巻 11
2. 論文標題 幕末維新期の在方町文人清宮秀堅 その生涯と著作	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 香取民衆史	6. 最初と最後の頁 63～94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木哲雄	4. 巻 32号
2. 論文標題 地域史研究としての香取文書論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域社会研究	6. 最初と最後の頁 3頁～8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹生 衛	4. 巻 264・265号
2. 論文標題 「災い」神を変える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神道宗教	6. 最初と最後の頁 1頁～24頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅治久	4. 巻 861号
2. 論文標題 日本中世における贈与社会論をめぐってー成果と課題を考えるー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 59-73頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅治久	4. 巻 885
2. 論文標題 書評「榎原雅治『地図で考える中世ー交通と社会ー』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 93-95頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村 修	4. 巻 13号
2. 論文標題 埴生西条・印西庄の成立と変遷	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印西の歴史	6. 最初と最後の頁 1～22頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村 修	4. 巻 4号
2. 論文標題 榎浦江の架橋、初発期の下総板碑と丹治氏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 成田市史研究余話	6. 最初と最後の頁 35～36頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田寿	4. 巻 第71巻第6号
2. 論文標題 紙の文化 伝統と繋がる未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小原流 挿花	6. 最初と最後の頁 8~12頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 中世武士団の統治と宗教
3. 学会等名 文部科学省科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B) 「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合: 歴史研究」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 日本中世の「旅と移動」研究の新段階 人流・物流・宿の実像
3. 学会等名 2022年度専修大学高校教員研修プログラム 日本史 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 原泉地区の中世の村々と生業 孕石氏の来歴と中世の原泉地区 (その2)
3. 学会等名 原の会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 地下文書の生成・変容と権力秩序 近世地方文書への道程
3. 学会等名 中世地下文書研究会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯浅治久
2. 発表標題 都鄙間における「公用関」と在地領主の関所支配について
3. 学会等名 『論集 東海道中世史研究』研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笹生衛
2. 発表標題 日本列島における祭祀の場のモニュメント化と神観の変化
3. 学会等名 日本考古学協会(第88回総会、研究発表)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笹生衛
2. 発表標題 八幡さまとお神輿
3. 学会等名 大分県立歴史博物館 令和4年度特別展記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笹生衛
2. 発表標題 宗像・沖ノ島における祭祀の意味と中世への変容 人間の認知機能と環境変化の視点から
3. 学会等名 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、特別研究事業成果報告会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木哲雄
2. 発表標題 香取文書の伝来と保存
3. 学会等名 日本古文書学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木哲雄
2. 発表標題 鬼怒川＝香取内海の地域世界－海夫注文から霞ヶ浦四十八津・北浦四十四津へ
3. 学会等名 地方史研究協議会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹生衛
2. 発表標題 水陸交通の結節点 琵琶湖塩津港遺跡と神社、 港湾における古代祭祀と中世への変質
3. 学会等名 古代交通研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹生 衛・木村 大樹・高橋 あかね
2. 発表標題 日本列島における古代景観の変化と神々の変貌 10世紀の災害との関係を中心に
3. 学会等名 「出ユーラシアの統合的人類史学-文明創出メカニズムの解明-」第6回全体会議（オンライン・ポスター発表）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 地方史研究協議会編（久保田昌希・鈴木哲雄・渡辺英夫ほか）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 304
3. 書名 海洋・内海・河川の地域史	

1. 著者名 鎌倉佐保・木村茂光・高木徳郎・鈴木哲雄ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 荘園研究の論点と展望	

1. 著者名 笹生 衛	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 286
3. 書名 まつりと神々の古代	

1. 著者名 秋道智彌・角南篤編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 西日本出版	5. 総ページ数 279
3. 書名 『海とヒトの関係学 コモンズとしての海』（笹生衛「第2章6 古代・中世の漁撈と沿岸環境」）	

1. 著者名 群馬県渋川土木事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	4. 発行年 2021年
2. 出版社 群馬県渋川土木事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	5. 総ページ数 -
3. 書名 『金井下新田遺跡 古墳時代以降編（国）353号金井バイパス（上信自動車道）道路改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 分析・論考編』（笹生衛「金井下新田遺跡における祭祀関連遺構の性格と歴史的な意義 遺構・遺物・文献史料から推定する古代の神・祖霊観と祭祀の実態」）	

1. 著者名 田中大喜編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 『中世武家領主の世界』（湯浅治久「中世武士団における一族・被官の西遷」）	

1. 著者名 菊地大樹・近藤祐介編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 249
3. 書名 『寺社と社会の接点』（湯浅治久「中世東国社会論再構築の試み」）	

1. 著者名 鈴木哲雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 334
3. 書名 日本中世の村と百姓	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『香取文書調査報告書 香取文書の文化財としての保存に向けた基礎的研究』（研究代表者 鈴木哲雄 都留文科大学教養学部）を、2024年3月に刊行。都留文科大学図書館リポジトリに保存・公開。<https://tsuru.repo.nii.ac.jp/records/2000111>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	笹生 衛 (SASO Mamoru) (60570471)	國學院大學・神道文化学部・教授 (32614)	
研究分担者	湯浅 治久 (YUASA Haruhisa) (70712701)	専修大学・文学部・教授 (32634)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木村 修 (KIMURA Osamu)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	池田 寿 (IKEDA Hitoshi)		
研究協力者	酒井 右二 (SAKAI Yuji)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関